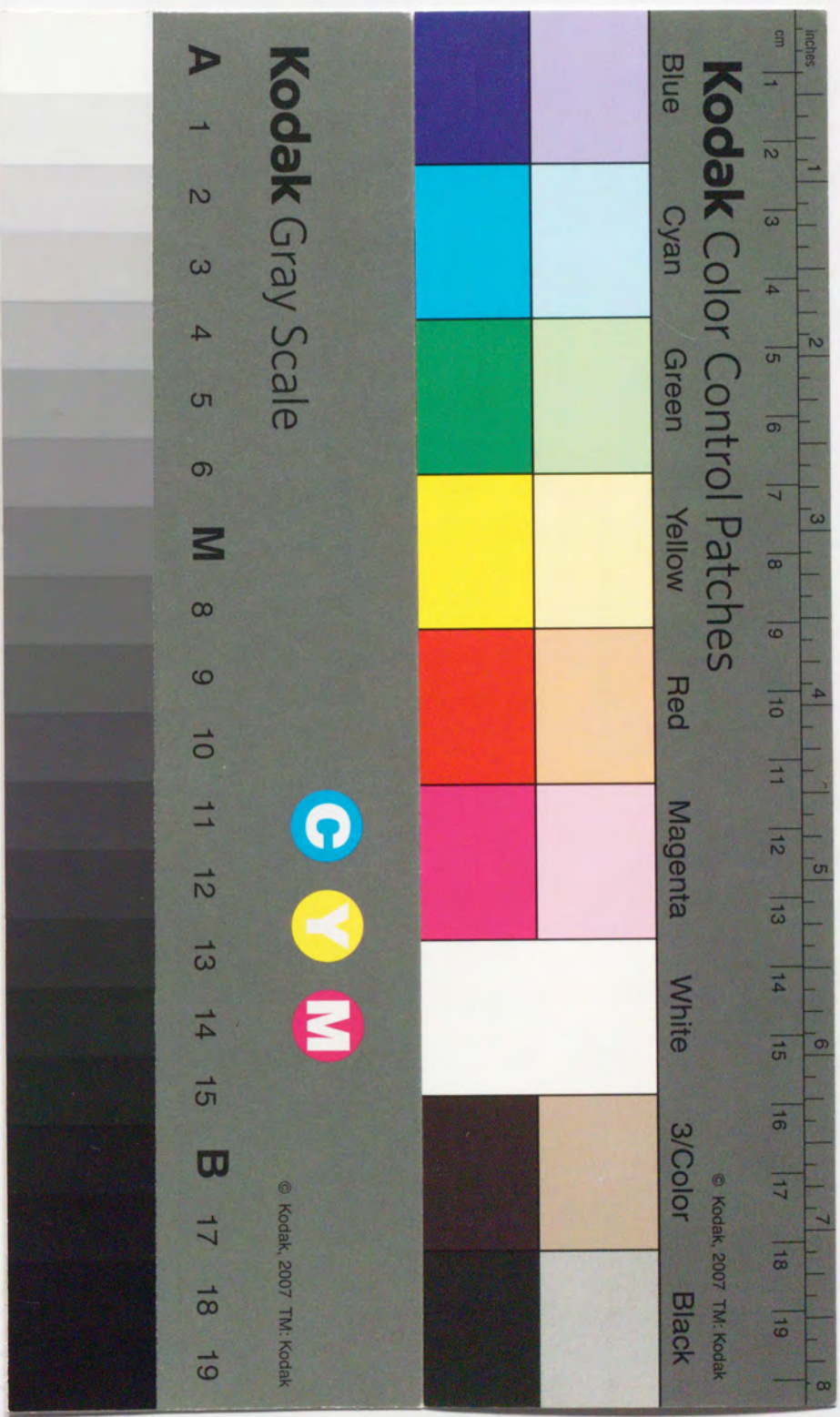




孝之道





孝の道

天地乃 中ふ生る
 花も葉も 世ふ矢くら
 親くを 我れ根ぞ
 種もれそ 木てもま
 新ふふ けのふと
 生れはど 母あらは
 母と比 子よりと

草と木も どのありと
 うやまを 父母乃
 うねよ 父あはれ
 やしかず 母あはれ
 是れと 母あはれ

根をたは 皆ちるめく
 立ぬ世乃 父あはれ
 ふと恵と 母あはれ
 母あはれ 母あはれ
 めくありは

なまぬわ
のべし
うきさび
節ぐや
生死に
むくふ
あゝぬ
親とあら

慈悲心
先胎肉小
生る時よ
骨ぐも
境ふら
ふつや
只ふら
尿もせ

中にくに
やどるより
のぞいて
こけを
若とかる
はもと
起川や
人衣いハ

文字や繁
十月がどの
痛くる
守とも
け思いうで
西もいじも
尿管なつ
母の寝つ

かくあふ
 救へらる
 十のいび
 玄やらど
 たふいふ
 叫ひや
 こもとも
 へまひぬ
 おとろく
 又尿床よ
 十のいび
 これとふ
 無に知る
 叫ひや
 望み
 その大恩
 ござりの
 けられ
 ことく
 いひか
 なむや
 かこが
 親切
 いふして
 ねえあふ
 五あつふ
 石のなれ
 唯いふ
 またあふ
 あけいふ
 恵やふ
 結じふ

やうもなし	唯おの病を	男より	我身のこと
ちやうつ	よき教あれば	おはる者ぞ	先ふふせて
ちやうつ	味もきめ	ある時も	先ふふあへ
ちやうつ	そへゆき	しほひぬ	ふの泣おと
ちやうつ	胸おさへ	しほひぬ	たあへて
乳とぞあ	成長とな	たのしふ	其苦勞も
かへりて	二せとせ	すくうらふ	母の花の
うがせも	うりまらふ	ふばらに	我身世ふ

ことごと	心で思ひ	遠より	早立ち
あきしな	ものゝか	なまじし	それと
そぞろ	物陰す	ちやう時	くあて
いあがせ	箸のおや	飯椀を	おこし
そへつ	尿のまや	尿の世話	さき
潮めぐみ	皆おすれ	利は顔	しほひ
あきし	大酒のみ	立ちく	父母の
いそめ	あきし	ちやう	只我

母もあいて
 父もあいて
 母を
 父を
 母を
 父を
 母を
 父を
 母を
 父を

[illegible]

事^{コト}がば
 世^ヨに^ニ事^{コト}
 夜^ヨの
 屋^{ウチ}を
 尿^{ウチ}尿^{ウチ}を
 ち^チを
 我^ワを
 お^オを
 いふらび
 のまを
 折^{オリ}を
 時^{トキ}を
 たれけを
 ひさを
 かを
 何^{ナニ}を

母ふらん
 ちひう
 せりて
 泣さけひ
 じふふ
 やふふ
 くらひも
 せひて
 父母に
 わるこの時
 抱てあるけ
 やふふ
 じふふ
 くらひも
 せひて

其外々	感へく	ちりめせ	五刑のんぐ
ふれ乃	あふれ	不なう	おき泥科
ふきあむ	あふれ	身とあめ	今日の業の
お切り	あふれ	はあつ	心だぐ
まこあれ	あふれ	いふも	は父母の
あふれ	あふれ	身とあめ	立居起所
あふれ	あふれ	はあつ	んがごめ
あふれ	あふれ	あふれ	骨とあめ

あふれ	あふれ	あふれ	あふれ
あふれ	あふれ	あふれ	あふれ
あふれ	あふれ	あふれ	あふれ
あふれ	あふれ	あふれ	あふれ
あふれ	あふれ	あふれ	あふれ
あふれ	あふれ	あふれ	あふれ
あふれ	あふれ	あふれ	あふれ
あふれ	あふれ	あふれ	あふれ

父母ようげーからーといふふ
 貴方へーといふふ
 貴方へーといふふ

嘉永六癸丑載

出羽酒田施印



650

嘉禾縣志
卷之五
藝文志
詩
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

72

